



ひなた新聞 31号



・子どもに対する防災意識の啓発

小学生が実際にまちを歩いて、まちの防災・防犯・交通安全をテーマとした子ども視点の防災マップ作りをして発表する安全教育プログラム「ぼうさい探検隊」が全国各地で実施されています。



マップを作成する中で「子どもの目線では案内板が見えない」「看板が子どもの目の高さには突き出ている」など子どもの視点で身近な危険を発見することができ、作成したマップを活用し危険箇所を行政等に提言したことで改善された例もあります。子どもの防災意識を啓発し、気づき・感じた危険箇所の改善を求めました。

・消防団の防災体制の強化を要望

年度	消防団装備／器具置場
28	活動服、編上げゴム長靴を全消防団員に配備
29	防火衣を全消防団員に配備／第24・27・28分団の器具置場の耐震診断実施
30	沿岸部の消防団にライフジャケットを増強配備、内陸部の消防分団にも配備予定／第27・28分団の器具置場の耐震設計を行い、補強予定
31	全消防団員への活動服の追加配備予定／器具置場は建築年数、構造一覧に基づき順次耐震診断を行う予定

・クリーンステーションの散乱や管理

ごみ散乱防止ネットは市から借りられますが、ボックス型を置きたい場合はクリーンステーション利用者が購入することになっています。クリーンステーション美化の観点からもボックス型を購入する際の助成を求めたところ、「ファスナー付きのカラスネットの貸し出しを行っており、その効果を検証し今後の対応を検討したい」との答弁をいただきました。



グリーン&ガーデニング大作戦

毎月第3土曜日の7時30分～8時30分
腰越駅集合(雨天中止)



腰越駅周辺・腰越海岸の清掃と雑草の手入れを行います。終了後、意見交換会も行っております。お時間の許す限り、お気軽にご参加ください。

☆スケジュール☆

第59回:2月17日
第60回:3月17日
第61回:4月21日
第62回:5月19日

鎌倉市議会議員

ひなた慎吾



活動レポート



1983年6月9日 生まれ (34歳)

モンタナ幼稚園→腰越小学校

→腰越中学校→鎌倉高校→日本大学卒業

IT企業へ就職後、2013年29歳で鎌倉市議会議員初当選。

2017年2期目の当選。腰越在住。

〈現在〉観光厚生常任委員会委員・議会広報委員会副委員長

12月定例会の一般質問で行った内容についてご報告いたします。

●市民にわかりやすい情報発信や案内について(ユニバーサルデザイン)

庁内研修の実施/UCDAアワードのアンサーボイス賞を受賞/「介護保険料のお知らせ」を改善/市民への案内の様式を見直すことを要望



●安全安心対策について

即時性、拡散性の高いSNSを活用/夜間の避難対策/災害等の情報をまとめたアプリの開発/子どもに対する防災意識の啓発/消防団の防災体制の強化/クリーンステーションの散乱や管理



住所: 鎌倉市腰越 3-23-7 連絡先: 0467-32-5889

ホームページ: <http://www.hinata-kamakura.com/>

ブログ: <https://hinata-shingo.amebaownd.com/>

メール: hinata.shingo@gmail.com フェイスブック: 日向慎吾

ツイッター: @HinataShingo インスタグラム: hinata.shingo



討議資料

●市民にわかりやすい情報発信や案内について(ユニバーサルデザイン)

平成 28 年 6 月の一般質問で同趣旨の質問をいたしました。今回はその後の取り組みや成果を踏まえ、相手を思いやる気持ちでわかりやすい案内のデザインを全庁的にさらに推進していくよう求めました。

市長からは「今後も全庁的な活用が進むよう、研修の実施や事例紹介などに努め、積極的な取り組みを進めていく」との答弁をいただきました。

・庁内研修の実施

平成 28 年度に 3 回、講師を招き「分かりやすく見やすい通知文等の作成」を目的とした庁内研修を実施。各課が使用する市民宛ての通知文や帳票類の見直しを行っていただきました。



・UCDA アワードのアナザーボイス賞を受賞

児童手当のご案内と記入例の見直しを行い、「わかりやすさ」を評価する唯一の第三者機関として認証制度を運営している協会（UCDA：一般社団法人ユニバーサルコミュニケーションデザイン協会）から表彰されました。



・「介護保険料のお知らせ」の帳票を改善し、問い合わせが半分に減少

毎月送付する 6～7 種類の通知を、4 種類に見直した上、UCDA 支援ツールを活用し、読みやすさ、わかりやすさの向上を図った結果、通知した内容に関する問い合わせがおおよそ半分に減少し、電話対応等に要する時間も大幅に削減されました。



・特定健診やがん検診の案内など市民への案内の様式を見直すことを要望

平成 29 年度、国保特定健診受診率向上のための案内チラシにキャラクターを取り入れるなど、見やすいわかりやすい工夫が行っていただきました。全ての人に配慮したデザインを導入し宇都宮市では健康診断の受診率が 6.4%向上、高松市はデザインマニュアルを作成し、各課がデザインを変えたことで問い合わせが大幅に減りました。

「伝える情報」から「伝わる情報」に変える！ この意識が大切です。

●安全安心対策について

・即時性、拡散性の高い SNS を活用

災害時の混乱している状況では色々な情報が飛び交うことが予想されますので、正しい情報の発信と間違った情報に対するの対応が重要です。熊本地震の際に、大西一史 熊本市長は、「デマに対応するのではなく、熊本市の正確な情報はここに載っていますよ」とご自身のツイッターで情報を発信続けられました。災害時に行政から正しい情報発信する仕組みの強化を求めました。

鎌倉市の現状

防災安全情報メール：登録者数 23,741 件（平成 29 年 12 月 1 日現在）

平成 27 年 11 月に気象警報、地震情報、津波警報等が発表された場合、即座に自動配信を行う機能を追加。

平成 29 年 2 月に市のツイッター、Facebook へも自動送信機能を追加。

・夜間の避難対策

蓄光機能を持たせた避難誘導路面シートの導入を要望しておりましたが、現在ほとんどのシートが蓄光機能を持ち、ソーラー対応の照明の設置など夜間災害時の対応をしていただきました。



しかし、30 施設指定している津波避難ビルは夜間に避難ができるかは施設の状況によって制約があるのが現状です。津波避難ビルに到着したが建物に入れないことがないように、夜間でも避難可能なのかきちんと周知することを求めました。

・災害等の情報をまとめたアプリの開発

高知県四万十町には、町から発信する避難情報や災害情報等緊急速報、交通状況、河川等監視などを確認できるアプリがあります。また、観光情報や地域のイベントなども見ることができ、災害時だけでなく普段から活用できるアプリとなっています。

四万十町のように頻繁に利用される情報をわかりやすい形で提供できるアプリの開発を求めたところ、「防災アプリの構築も研究し、実効性の高い情報伝達体制の強化に取り組んでまいりたい」との答弁をいただきました。

四万十町アプリ

